



## 10月1日から 地域包括ケア病床2病棟へ

当院では、平成27年4月から7階西病棟を地域包括ケア病棟としていますが、10月から4階東病棟を追加し、2病棟で運用を開始します。

これにより、地域包括ケア病床は47床から107床となります。  
◆**地域包括ケア病棟とは**

本来、一般病床で急性期医療が終了し症状が安定すると、早期に退院していただいています。しかし、手術や検査が終了した後、すぐに在宅や施設へ移行するには不安のある患者さんもいます。そのため、しばらくの間入院療養を継続し、その間に自宅への退院準備をしっかり整えるようにお手伝いをさせていただきます。

だくことを目的としています。入院中は、在宅復帰支援計画に基づき、主治医、看護師、専従の医療ソーシャルワーカーなどが協力して、効率的に患者さんのリハビリや在宅復帰に向けた相談、準備を行っていきます。入院期間は患者さんの状態によりさまざまですが、保険診療上「地域包括ケア病棟」へ移ってから、最長で60日となります。

### ◆利用までの流れ

主治医が一般病棟からの転棟を総合的に判断し、患者さんと家族の方に提案します。了承いただいた場合に利用となります（開業医からの紹介の場合、直接入院となることもあります。）

### ◆入院費について

入院費は定額で、リハビリ、投薬料、注射料、処置料など一部を除いてほとんどの費用が含まれます。（食事料・室料差額は別途必要）

一般的な血液検査、レントゲン検査、投薬治療は可能ですが、一般病床で行うような特殊な検査、手術などの急性期医療には対応できません。症状の変化のため、主治医が集中的な治療が必要と判断すれば、一般病棟に転棟していただくこともありま



## 再び海へ

遠い昔、わたしたち脊椎動物のご先祖様は、長い時間をかけて陸への進出を果たしました。その後、陸上で多くの生物が登場する中で、再び陸から海へ戻っていった変わり者たちがいます。クジラやジュゴンなどがその仲間です。

海に戻る過程で、彼らの手は再びヒレの形に戻り、後ろ足はなくなり、皮膚の一部は変化して尾びれや背びれになりました。あの手の手を使って、四本足で陸を歩いていた動物が、魚のような姿になったのです。

長い地球の歴史の中で、海へ戻ったのはクジラたちだけではありません。

ません。絶滅してしまった首長竜や魚竜たちも、海へ還った動物の代表です。

魚竜もクジラ同様に、四本足だった動物が魚のような姿になった動物です。魚竜は爬虫類、クジラは哺乳類ですが、海という環境で生きていくために、似た姿になっていったのです。

しかし、どんなに外見が似ていても、もともとは異なる動物です。骨を見れば、魚竜は爬虫類、クジラは哺乳類である証拠がきちんと残っています。

また、首長竜も海に還った爬虫類ですが、魚のような姿にはならなかったようです。生物たちはそれぞれの戦略で賢明に生き抜いているのです。

科学館にはクジラ、魚竜、首長竜の骨格がありますので、ご来館の際には、何が同じで何が違うのかをぜひ見比べてみてください。